

認定情報技
術者制度

技術士制度改
革

ISO/IEC
24773

IFIP IP3

次世代高度IT
人材

REBOK

データサイエ
ンティスト

世界最先端IT
国家創造宣言

共通フレーム
2013

高度IT資格制度と情報系プロフェッショナルコミュニティのあるべき姿

Software Japan 2014 ITフォーラムセッション
高度IT人材育成フォーラム

9:30～12:00

1

情報産業のグローバル化 ×

www.ipsj.or.jp/topics/ITshikaku.html

事務局問合せ一覧 よくある質問 サイトマップ English マイページ

情報処理学会
Information Processing Society of Japan

いいね! 124 ツイート 49

Google™ カスタム検索 検索

提言 / プレスリリース

ホーム > 提言 / プレスリリース > 情報産業のグローバル化に対応した上級資格制度

情報産業のグローバル化に対応した上級資格制度 — 制度案の公表と試行の開始 —

2013年6月3日
一般社団法人情報処理学会

一般社団法人情報処理学会(会長:古川一夫)は、情報技術者を対象とする上級資格制度の創設を検討して参りましたが、このほど制度案がまとまりましたので、公表いたします。

情報システムは現代社会の基本的なインフラとなっており、それを支える情報技術者は高度の能力を有するプロフェッショナルであることが望まれます。ところが、我が国においては情報技術者のプロフェッションが確立しておらず、プロフェッショナルとしての能力を可視化する適当な手段もないのが実情です。そこで、本学会では「認定情報技術者制度」を創設することとし、いたしました。この制度は、高度の専門知識と豊富な業務実績を有する情報技術者に資格を付与することにより、その能力を可視化するとともに、資格を有する情報技術者からなるプロフェッショナルコミュニティを構築していくことを目的としています。

本学会では、世界50余ヶ国の情報処理関連団体が加盟するIFIP(情報処理国際連合)の推進する資格制度との連携も視野に入れて制度設計を行っており、我が国の情報産業におけるグローバル人材の育成という緊迫の課題にも応えたものとなっています。

制度の実施に先立ち、制度案を公表して広くご意見を伺うとともに、小規模な試行を実施し、本格実施に向けた準備を進めていきたいと考えております。

資格制度の概要

「認定情報技術者制度」は、日本企業の間にも広く普及しているITスキル標準を参照モデルとした制度です。ITスキル標準では情報技術者のレベルを7段階に分けて定義していますが、本制度はレベル4以上の上級技術者を対象としています。ITスキル標準で定められたスキル評価方法に基づき、所定のレベルに相当する能力を有すると判定された技術者に対して、情報処理学会が認定書を発行します。

情報技術の分野は発展のスピードが特に速いため、情報技術者はつねに新しい知識やスキルを習得する努力を求められています。最近の国際標準でもCPD(継続研鑽)を前提とした資格の更新制が必須とされるようになってきています。本資格は有効期間を3年としており、更新に際しては所定のCPD実績が条件となります。

- 学会について
- 提言/プレスリリース
- 表彰
- 学会誌「情報処理」
- 論文誌
- 電子図書館
- イベント
- 研究会
- ITフォーラム
- IPSJカレンダー
- 会員サービス
- 図書販売
- 教育・人材育成
- コンピュータ博物館
- 情報規格調査会

IPSJ カレンダー
学会のイベントはこちらから ▶▶▶

入会する
入会申込み方法と会員サービスのご紹介など

管理部門へのお問い合わせ
総務担当
E-mail: soumu@ipsj.or.jp
Tel. 03-3518-8374

認定情報技術者制度-情報 ×

www.ipsj.or.jp/annai/committee/education/it_shikaku.html

事務局問合せ一覧 よくある質問 サイトマップ English マイページ

情報処理学会
Information Processing Society of Japan

いいね! 4 ツイート 0

Google® カスタム検索 検索

教育・人材育成

ホーム > 教育・人材育成 > 認定情報技術者制度

認定情報技術者制度

はじめに | 資格制度の概要 | 資格制度の意義 | 国際標準への適合 | 社内資格制度の認定 | 情報処理技術者試験との関係 | 今後の予定 | 制度案の詳細 | 参考資料 | 本件に関するお問い合わせ |

はじめに

情報システムは現代社会の基本的なインフラとなっており、それを支える情報技術者は高度の能力を有するプロフェッショナルであることが望まれます。ところが、我が国においては情報技術者のプロフェッションが確立しておらず、プロフェッショナルとしての能力を可視化する適当な手段もないのが実情です。そこで、本学会で「認定情報技術者制度」を創設することになりました。この制度は、高度の専門知識と豊富な業務実績を有する情報技術者に資格を付与することにより、その能力を可視化するとともに、資格を有する情報技術者からなるプロフェッショナルコミュニティを構築していくことを目的としています。

本学会では、ソフトウェア技術者を対象とする資格制度に関する国際標準との整合性も考慮して制度設計を行っており、我が国の情報産業におけるグローバル人材の育成や情報分野における我が国の資格制度の国際展開といった緊近の課題にも応えています。

資格制度の概要

「認定情報技術者制度」は、日本企業の間広く普及しているITスキル標準を参照モデルとした制度です。ITスキル標準では情報技術者のレベルを7段階に分けて定義していますが、本制度はレベル4以上の上級技術者を対象としています。ITスキル標準で定められたスキル評価方法に基づき、所定のレベルに相当する能力を有すると判定された技術者を「認定情報技術者」として認証し、情報処理学会が認定証を発行します。

情報技術の分野は発展のスピードが特に速いため、情報技術者はつねに新しい知識やスキルを習得する努力を求められています。最近の国際標準でもCPD(継続研鑽, Continuing Professional Development)を前提とした資格更新制度が必須とされるようになってきています。本資格は有効期間を3年としており、更新に際しては所定のCPD実績が条件となります。

また、本資格制度自体も不断の改善を行うこととしており、例えばITスキル標準、共通キャリア・スキルフレームワーク、関連する国際標準等の改訂にも対応して制度を改善します。

資格制度の意義

- 学会について
- 提言/プレスリリース
- 表彰
- 学会誌「情報処理」
- 論文誌
- 電子図書館
- イベント
- 研究会
- ITフォーラム
- IPSJカレンダー
- 会員サービス
- 図書販売
- 教育・人材育成
 - コンテント
 - 表彰
 - ベネフィット
 - Webラーニングプラザ
 - シンポジウム
 - パブリックコメント
 - カリキュラム標準
 - アクレディテーション
 - 高度IT人材育成
 - 関連組織
 - 教育コンテンツ
 - 認定情報技術者制度
- コンピュータ博物館
- 情報規格調査会

講演1: 情報処理学会の高度IT資格制度とそれに関連する取り組み(旭寛治)

講演2: 個人を対象とした認証制度とその試行(芝田晃)

講演3: 企業を対象とした認定制度の設計(西直樹)

講演4: ~~REBOK~~と人材育成(~~青山幹雄~~)

講演プログラム

4

司会：掛下哲郎（高度IT人材育成
フォーラム代表、佐
賀大学）

旭寛治（IPSI ITプロ
フェッショナル委員
会 委員長、日立製
作所）

芝田晃（IPSI 個人
認証試行委員会・
委員長、三菱電機）

西直樹（IPSI 企業
認定制度設計WG・
座長、日本電気）

上田健之（日本技
術士会 情報工学
部会・部会長）

中谷多哉子（JISA
要求工学推進部
会）

パネル討論：高度IT資格制度や情報 系プロフェッショナルコミュニティはい かにあるべきか

5